

おすすめ! NPO/
NPO
活動レポート
vol.4

毎回、中国地方各県から、積極的な活動を行っているNPO団体をピックアップしているこのコーナー。今回はNPOと同じく公益的活動を行っている岡山の公益財団取材しました。

こうなったらいいなを 地域 みんなで実現

地域の誰もが社会を変えることに参加できるよう「人・モノ・お金・情報など」をつなぎ、シェアするための「あたらしいインフラ」づくりに取り組んでいる「みんつく」。そのユニークなしくみと設立の思いをご紹介します。

岡山県 公益財団法人 **みんなでつくる財団おかやま**



公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま
代表理事 **石田 篤史**さん

“ボクらの時代は、ボくらでよくする!”
みんなの勇気を、未来の希望に変えよう。

どの地域もさまざまな課題を抱える中、「どこを優先させるべきか」といった行政の公正公平の原則だけで動いているだけでは、十分な問題解決はのぞめません。そこで行政や企業のサービスなどで対応しきれない地域の困りごとをNPOが支えているのですが、いま多くのNPOが資金的な問題を抱え、活動の拡大や継続が困難となっています。

そんな中、京都で資金仲介機能を持った「地域創造基金」が誕生し、NPOに資金をつながけていると聞き、勉強会に参加したのが、公益財団法人「みんなでつくる財団おかやま(通称:みんつく)」立上げのきっかけとなりました。翌年には勤務していた職場を退職。立上げ準備にかかると同時に、県内27市町村を巡って、あらゆる職業の若者から賛同を募り、呼びかけ人になってもらいました。特に若い世代中心に声をかけたのは、「みんつく」に限られた人のみの社会参画にしたいなかつたからです。

地域にはすでに取り組みをしている人、したい人がたくさんいます。彼らの勇気(活動)をみんなで応援し、未来の希望に変えていくには、地域のポテンシャル(人・モノ・お金・情報など)をつなぎ、つたえ、シェアしていくしくみが必要です。「みんつく」はまさにその思いを体現したしくみ。岡山県の若者約100人が呼びかけ人となって、530名から集まった基本財源4,133,000円は、その思いの結晶でもあります。



▲財団の立上げに賛同して集まった「呼びかけ人」のみなさん
◀毎月19日は「Share会議」。地域の課題を発信・発見する場です

「つなぐ、つたえる、シェアをする」ための3つの柱

1 割り勘で夢を叶えよう!
事業指定助成プログラム

プロジェクトのアイデアを公開し、賛同者の寄付により、資金集めを支援するしくみ

2 みんなの貯金箱を持とう!
みんつく冠基金事業

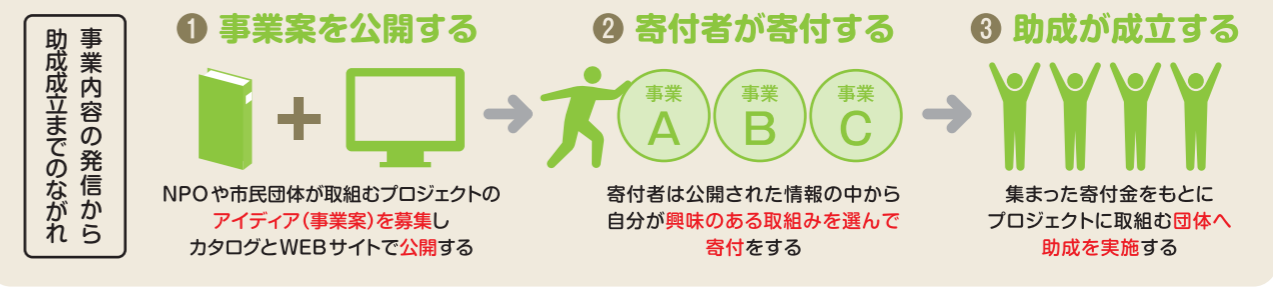
(冠基金事業) 地域で必要な取組みに対して、個人でも少額から基金を設立できるしくみ

3 みんなとやればできるはず!
地域円卓会議

地域における社会課題の解決をさまざまな主体で対等の立場で話し合い、解決に向けたアクションをおこすしくみ

1 事業指定助成プログラム 通称【割り勘】

寄付を原資とした助成事業。NPO・市民団体等が取り組む事業内容を社会に発信し、事業への賛同者を募ることで、寄付により資金集めを支援する地域版クラウドファンディングです。



●【割り勘】で夢をかなえたプロジェクト【「橋守」仕組み化プロジェクト】

「橋守」サポーターを育てて、地域をみんなで守ろう!

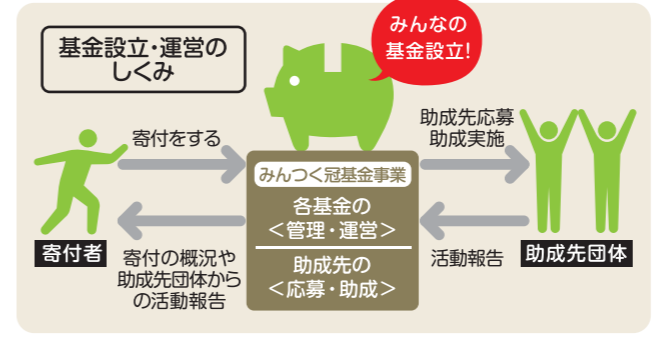
コンクリート建造物の老朽化が社会問題になっています。岡山県下においても橋の点検や補修計画が進められています。ところが対象となっているのは15m以上の橋のみ! 何千、何万とある15m未満の橋に関してはまったく手つかずの状態です。そうした状況に危機感を抱く建設業OBの団体が、「みんつく」に対して「老朽化した橋を点検できるしくみをつくりたい」と助成を申請。住民や学生たちと一緒に橋梁点検体験会などを行い、住民が自ら点検できるしくみづくりを展開しています。



30万円の目標金額に対し、**318,000円の寄付**が集まりました。

2 みんつく冠基金事業 通称【貯金箱】

自分のアイデアを提示して寄付を募る助成事業に対し、冠基金事業は寄付者が自分の思いを託して夢を実現してもらうしくみ。現在、設置中の基金には景観保護に取り組む「おかやま普請基金」や「学生被災地応援ネットワーク基金」などがあります。



取材協力/公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま
岡山市北区南方2丁目13-1きらめきプラザ2階 ゆうあいセンター内
☎086-206-2195(代) ホームページ <http://mintoku.jp>